

サクラマス資源造成技術の開発

ね ら い：サクラマス資源の増大を図るため、漁獲実態の把握、回帰性の高い幼魚生産・放流技術の確立、並びに放流幼魚の移動・分布特性等を明らかにする。

成果の特徴： 漁獲量は、平成 11 年以降減少傾向であったが、15 年度に急増した。

海面ではほとんど春に漁獲されるのに対し、河川では秋にも漁獲される。

回帰率は向上していない。

放流魚の約 50% がスモルトになっていたものと考えられ、その盛期は、概ね 3 月下旬から 4 月上旬となっている。

安家川で生産した幼魚は、推定値で、4～6 割程度が降海していると考えられ、本県の地理的条件からすると概ね良好な成績である。

降海した幼魚の多くは短期間に襟裳岬近海まで北上している。

冬季には噴火湾から津軽海峡の近海付近に集まると考えられている。

成果の活用面：現時点での本研究の成果の活用は、スモルト化率の高い幼魚生産技術に限られる。今後、経費のかからない技術が開発され回帰率が向上すれば、サクラマスの種苗生産放流事業への活用が期待される。

[具体的データ]

図 1

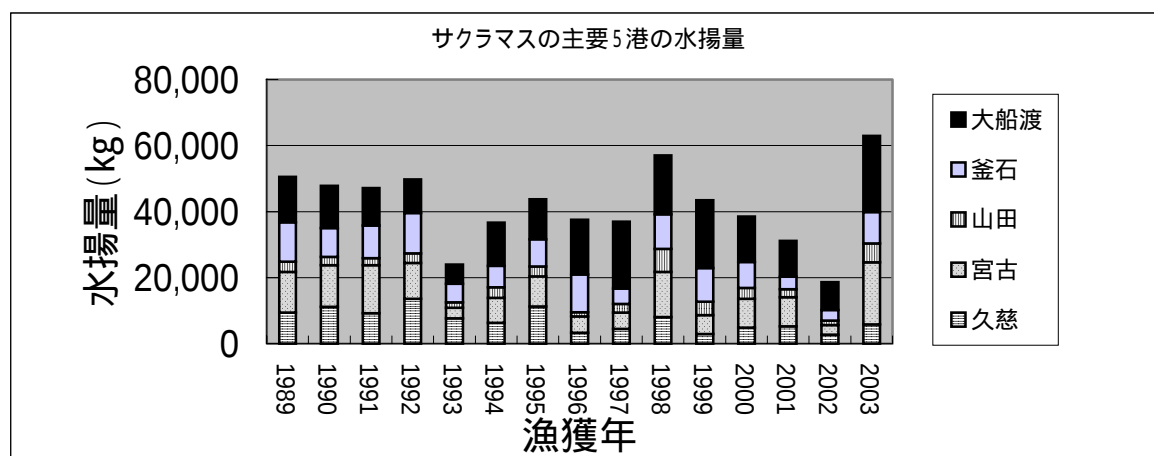


表 1 標識放流群の沿岸回帰率

単位：%

放流群 \ 回帰年	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15
安家川 (1+春)	0.05	0.10	0.17	0.28	0.47	0.08	0.14	0.15	0.12	0.06	0.04	0.09
安家川 (0+秋 or 夏)					0.07	0.02	0.05	0.05	0.05	0.01	0.02	0.02
摂待川 (0+スモルト)	0.11	0.13	0.06	0.02	0.06							
閉伊川 (注)	0.07	0.18	0.13	0.07	0.14	0.07	0.04	0.17	0.08			

注) 閉伊川放流群は、平成 6 年回帰群までは 0+スモルト放流、それ以降は 1+春放流

0+については、平成 13 年からは夏放流の回帰

表2 平成 15 年の安家川における親魚そ上状況

単位: 尾、%

		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
採捕数	雄	0	0	0	2	0	0	2	9	2	15
	雌	1	44	24	2	0	0	13	59	24	167
	計	1	44	24	4	0	0	15	68	26	182
うち	0+夏放流群	0	0	1	2	0	0	0	2	3	8
標識魚	1+春放流群	0	0	2	0	0	0	2	7	10	21
標識魚計		0	0	3	2	0	0	2	9	13	29

表3 安家川標識放流群の河川回帰率

単位: %

回帰年	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
1+春放流群	0.010	0.000	0.025	0.058	0.118	0.032	0.020	0.065	0.016	0.010	0.001	0.021
0+秋 or 夏放流群					0.022	0.004	0.007	0.027	0.009	0.002	0.001	0.006

注) 0+ については、平成 13 年からは夏放流の回帰

表4 平成 14 年級安家川そ上系幼魚のスモルト化率

測定年月日	測定尾数	平均尾叉長 (cm)	平均体重 (g)	スモルト出現尾数	スモルト化率 (%)
16.03.11	120	17.1	52.8	5	4.2
16.03.29	110	17.7	58.3	42	38.2
16.04.12	110	18.0	61.4	64	58.2
16.04.28	104	18.6	64.6	64	61.5
16.05.11	110	21.0	80.7	66	60.0

担当者	漁業資源部 主任専門研究員 大友俊武	0193-26-7915	FAX0193-26-7920
連絡先	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第3地割75番3号		
	ホームページ http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/		